

かいこう

+ Daily Innovation +

特集

疑問こそがアイデアのもと。
日頃の小さな気づきを大切にする、
それこそがデイリーイノベーション

「全ての患者さんに応える医療」へ。
チーム偕行会で、実現をめざす。

ふるえにお悩みの方は
名古屋共立病院「ふるえ外来」へ！

偕行会グループ 理念

総合的な
医療をめざす

01

真に患者のための
医療をめざす

02

医療従事者の働きがいのある
法人運営をめざす

03

vol.76

2026 夏号

TOP INTERVIEW

川原 真

偕行会グループ 副会長
専務理事

2026年4月1日付で偕行会グループの副会長に就任。同じく副会長であり偕行会の理事長でもある山田哲也先生とともに二人三脚でグループ経営を担う。

トップインタビュー／川原真副会長

「常に投資できる利益環境をつくることをめざして」

疑問こそがアイデアのもと。

日頃の小さな気づきを大切にすると、

それこそがデイリーイノベーション

今必要なのは、将来を見据えた大型投資を行える利益確保——その原動力となるのは、職員一人ひとりのアイデアの積み重ねです。

2年後の診療報酬改定が 存続への分岐点になる？

今の日本は「豊かな国」ではなくなっています。円安、物価上昇、競争力の低下：これらは医療経営にもダイレクトに跳ね返り、コストだけがどんどん上がる。一方、人口減少で患者数は減る。この負のスパイラルをどうするか…。

意識すべきは、やはり診療報酬改定です。これまで医療機関は物価の高騰に対する補点がなかったですが、今回の改定では、その影響が考慮される形となり、少しだけ息が付ける見込みとなりました。しかし問題は次回、2年後の改定です。医療費削減が叫ばれている今、我々にとって有利な改定が実現するとは考えにくい。ここが存続への分岐点になるでしょう。

常に「進取の精神を」 現状維持は衰退と同じ

偕行会グループは世界トップレベルの透視技術と、最先端医療等を特色としています。しかし技術の進展はきわめて早く、一年間何もしなければすぐに遅れを取る状態です。先端医療には新たな機器が必要

で、最新機器の導入には投資が必須。また、新たな技術を取り入れることは、医師やコメディカルの技術の向上にもつながります。生き残るには、医療方針にも掲げられている「進取の精神」を持ち、常に投資ができるだけの利益環境を確保せねばなりません。

現状維持は衰退と同じです。まずこの意識を全職員に持っていただきたいと思います。

視点を換えることで アイデアがふくらむ

常に投資ができるような利益環境を確保するには、安定経営と市場拡大が必要です。そして、市場拡大するには、みなさんのアイデアも大きく役立ちます。例えば、みなさんがよく知っている健康診断の結果を知らせる紙にもヒントがあります。

職場の健康診断で、クレアチニンや尿たんぱくに黄信号が出た人がいるとしましょう。それだけでは見過ごされがちですが、産業医が指摘して、腎臓の検査を強く勧めたとしたら危険な状態は避けられるかもしれない。そこで私たちは、産業医の方々に働きかけるチラシ※を作成しました。今後、営業活動を行う予定です。腎臓の数値がどのくらい悪いのか、それを産業医から伝えてもらえれば、患者さんにとっては早期対応の機会となり、偕行会にとっては患者さんの拡大につながるかもしれません。まずは、日常のヒントを見逃さない。

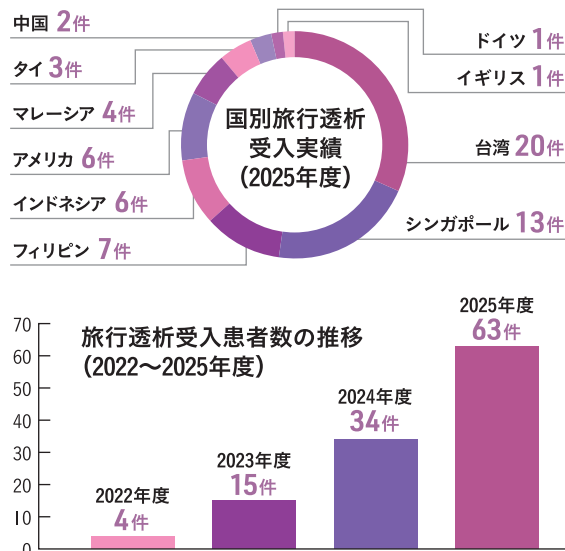
物事を俯瞰して見るのが大切です。

偕行会グループがハブとなる 旅行透析受け入れ体制の構築

自由診療を拡大するため、私たちは海外市場の開拓に早くから着手してきました。現に豊島中央病院中心に各クリニックでは海外からの旅行透析の需要も増えています。



※啓蒙チラシ



これはまだアイデア段階ですが、北海道から沖縄まで、各地のクリニックと連携を取り、偕行会グループがハブとなり、外国人患者に、旅行透析の受け入れができる病院・クリニックの情報提供を行う体制を構築することを検討中です。日本中どこに行っても安心して透析を受けながら、旅行できる環境は、リピーター創造につながります。さらに、グループ施設外でも、国際医療事業部のメンバーが通訳をすることで、新たな収入源を創出できるでしょう。

デイリーイノベーション 小さな気づきが 未来を変える力になる

法人の利益や発展は、給与アップや福利厚生に直結します。あなたもぜひ考えてみてください。何か思いついたら上司に話してみてください。難しい話ではありません。クレームや要求はいけません、誰にでも疑問や小さな気づきはあるでしょう。その疑問や気づきこそが未来を変える力になるかもしれません。

そして、上司や管理職は、部下からの提案を前向きな対話で聞いてあげてください。そのアイデアの積み重ねこそが、偕行会のデイリーイノベーションです。

INTERVIEW

村上 栄司

名古屋共立病院 副院長
血管外科センター センター長
国際診療科 副部長

医療だけでなくスポーツの分野でも活躍されている先生です！

(資格・認定)

- 日本心臓血管外科学会 専門医
- 日本心臓血管外科学会 修練指導者
- 日本外科学会 専門医
- 日本DMAT隊員(統括DMAT)

(スポーツ活動)

- 一般社団法人
岐阜県ラグビーフットボール協会 副理事長
- 日本ラグビーフットボール協会
普及育成委員会(中学生部門)
- 日本ラグビーフットボール協会
安全対策委員会
- 関西ラグビーフットボール協会
・U15普及育成委員会(スクール部門長)
・医務委員会(総務委員)
- 岐阜ラグビースクール校長

「全ての患者さんに応える医療」へ。
チーム偕行会で、実現をめざす。

2026年1月、
副院長に就任した村上先生。
これまで培ってきた豊富な経験をもとに、
名古屋共立病院をどのように
導いていくのか。
その想いと展望を伺いました。

心臓血管外科医として 1000症例を超える執刀経験

2024年に名古屋共立病院に着任して一年半が経ち、日々この病院のポテンシャルの高さを実感しています。

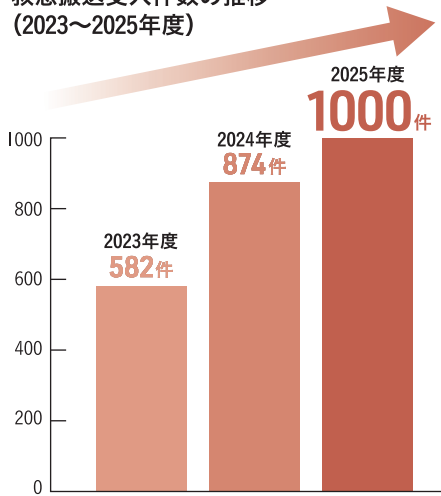
私は医学部卒業以来、心臓血管外科医としての研鑽を積んできました。2005年からの3年間は、岐阜大学医学部附属病院の高次救命治療センターで救命医として務め、博士号の研究にも打ち込み学位を取得しました。それから、前任地である岐阜市民病院の心臓血管外科で16年間勤務し、年間100例以上の手術を行う基幹施設で、これまでの執刀件数は1000例症を超えていると思います。

名古屋共立病院は、これまでの経験を存分に活かせる環境です。歴史や強みがしっかりあり、職員全員が一体となって医療を提供する「チーム偕行会」の姿勢が魅力的です。また、能力に応じて仕事が与えられたり、ポジションを任せてもらえたりする点も、自分の性分に合っていると感じています。

救急外来は受け入れ数を増やし ハブ病院としての価値を上げる

名古屋共立病院が以前から取り組んできた「断らない救急」も、ポテンシャルを感じた一つです。救急室からCT室までの移動が短く、スムーズであることは何よりの強み。救急患者は24時間CT・MRI検査が可能な当院で速やかに診療を開始し、対応が難しい場合は他院へ搬送する。この一連の流れが、ハブ病院としての確かな価値を地域に示していると感じます。私自身、急性期医療に長く携わってきましたので、どんな疾患も怖くないですね。前任地は災害拠点病院でもあり、DMAT（災害派遣医療チーム）のリーダーを拝命して能登半島地震の際は被災地へ赴きました。倒壊した家屋から救出された90代女性は命の危険が迫っており、透視治療をするための水もない混沌とした状況の中、静岡の整形外科医と共に下肢切断手術を行い、救命したこともあります。

名古屋共立病院の
救急搬送受入件数の推移
(2023～2025年度)



また救急医時代の経験を踏まえ、着任後は中村・中川・港区の各消防署へ積極的に営業活動を行いました。ありがたいことに、看護師たちは「どれだけでも受けます」という気概があり、この一年で救急外来も大幅に増患し、救急搬送の受け入れ数が1000件を達成することが出来ました。

今秋開催のアジア競技大会では 当院の国際医療を強みに貢献

今年9月に愛知・名古屋で開催される第20回アジア競技大会において、名古屋共立病院と名古屋画像診断クリニックが大会指定病院となりました。また、大会期間中はアジア各国からアスリートやトレーナーなどが来日します。そのため名古屋共立病院では、ケガや体調不良を訴える選手の受け入れにも積極的に対応し、大会の成功に貢献できたらと考えています。

私が今、注目しているのはがん治療との併用や突発性難聴の治療などにも利用される高気圧酸素治療（HBO）。ケガなどからの早期回復や、選手がベストパフォーマンスを出す上でのコンディショニング用として、各国チームに向けてHBOの周知拡大を図りたいところです。臨床工学技士とも連携し、診療時間外でも対応できるような取り組みも、検討していきます。

私は学生時代から40歳過ぎまでラグビーを続けてきました。日本で開催されたラグビーW杯では、協会医務委員として参加し、

以来様々な国際大会にも参画しています。そうした個人的な経験も、アジア競技大会の医療対応に活かし、偕行会グループのブランド力向上に貢献していきたいと思っています。

「専門馬鹿になるな」の心で どのような患者にも対応したい

着任後は血管外科医として、下肢ASO患者の末梢血管手術や切断術、透視シャント手術なども行ってきました。周辺病院からもシャントトラブル患者を受け入れ、この一年で220症例に携わっています。それでも、心がけているのは川原語録※にもある「専門馬鹿になるな」というスピリット。今までの経験を活かし、来る患者は全員診ていきたいですね。

救急やインバウンドに限らず、まず「患者さんを診る」姿勢が信頼を生み、その積み重ねが病院の価値や売上に繋がっていく。そうした好循環を、今後も名古屋共立病院でつくっていききたいと考えています。

川原語録

- 人間の歴史はより良い経済を追求してきた歴史である
（新産業革命の時代、経済成長が、文化のよきでもたらした。経済成長が文化のよきをもたらす。文化は経済成長を促す。経済成長は文化のよきをもたらす。）
- 歴史を深読みせよ
（歴史は文化のよきをもたらす。文化は経済成長を促す。経済成長は文化のよきをもたらす。）
- Daily Innovation
（歴史は文化のよきをもたらす。文化は経済成長を促す。経済成長は文化のよきをもたらす。）
- 数字を見たら政策を考えよ。会議を行ったら行動に移せ。
- 物事を観る時に単純に見える。複雑で見よ
- 病気を診るな。人を診よ
- 専門馬鹿になるな
- 「為せば成る。為さねば成らぬ何事も。成らぬは人の為さぬなりけり。上杉謙山」
- 豊かな人生を創ろう
（豊かな人生は文化のよきをもたらす。文化は経済成長を促す。経済成長は文化のよきをもたらす。）
- 感性と理性の関係
（感性は文化のよきをもたらす。文化は経済成長を促す。経済成長は文化のよきをもたらす。）
- 人生は選択の連続である
- 世界市民になろう（日本に住みながら）
（世界市民は文化のよきをもたらす。文化は経済成長を促す。経済成長は文化のよきをもたらす。）
- 情報を知り（生まれたら発信し、共有すること）
（情報は文化のよきをもたらす。文化は経済成長を促す。経済成長は文化のよきをもたらす。）
- この世の中で生き残るのは強い者でも賢い者でもない。ただ変化に対応できる者だけである（ダーウィンの進化論）
- 個と集団の関係を正しく理解せよ
（個は文化のよきをもたらす。文化は経済成長を促す。経済成長は文化のよきをもたらす。）
- 同業の世界の中だけで存在しているだけでは新しいものは生まれない
（同業は文化のよきをもたらす。文化は経済成長を促す。経済成長は文化のよきをもたらす。）

↓ 偕行会グループ

※川原語録

CONVERSATION

橋田 美紀

名古屋共立病院 集束超音波治療センター

津川 隆彦

名古屋共立病院 副院長
集束超音波治療センター センター長

ふるえにお悩みの方は

名古屋共立病院「ふるえ外来」へ！

うまく字が書けない。箸が持てない…ふるえに悩む方の多くは、治療できる病気だと知らず受診につながっていないのが現状です。

「まずは知ってほしい」「相談に来てほしい」

そんな想いを、先生たちからお伺いしました。

—— 病気だという認識がない 治療できるとも思っていない

橋田 実は先日地下鉄で、隣に座っていた人の頭がふるえているのを見てしまい：名刺を渡そうかとしばらく悩んだのですが、思いとどまりました。怪しすぎるだろうと。

津川 わかります。ふるえで困っている方はたくさんいるのに、本人が病気だと思っていないかもしれませんから、治療を勧めても逆に警戒されるかもしれません。

橋田 患者さんからは「他の医療機関に受診したこともあるが、年齢のせいだと言われたり、命にかかわる病気ではないからと治療の話をしてもらえなかった」という話を伺ったこともあります。脳を専門とする医師の中でも、ふるえに対する治療に関して少なからず認識の差があります。

津川 認識の低さは最大の課題ですね。直接命を奪う病気ではなくとも、文字を書けない、キーボードが打てない、仕事ができない、食事できない…など、それにかかわらず「気のせい」で放置されてしまい、表面化していません。

—— 症状の困り具合は人それぞれ だから初回は30分ヒアリング

津川 ふるえはストレスや薬の副作用、病気によるものなど、様々な要因で生じます。私たちはまずその原因を探り、どの治療が適切か検討していきます。病気が原因で生じるふるえで、代表的なものはパーキンソン病や、本態性振戦です。

橋田 本態性振戦は65歳以上の10人〜20人にひとりが発症すると言われていますが、20代、30代の患者さんもうらっしゃいます。手のふるえが原因で、就職活動や婚活中の方が「このままではうまくいかない」と感じ受診された例もありました。

津川 私が診た患者さんの中には歯科医師の方で、手のふるえが原因で休職された方もいらっしゃいました。

橋田 事情は人それぞれですから「ふるえ外来」では初診時の聞き取りを重視しています。

そのため、一般的な外来では、患者さん一人あたりの診察時間は10分程度ですが、ふるえ外来では30分程時間を設け、どんなこ

ふるえ外来と 集束超音波治療(FUS)

名古屋共立病院では2017年7月に中部地区で初めて集束超音波治療(FUS)を導入し「ふるえ外来」を開設。原因不明のふるえである本態性振戦やパーキンソン病など、ふるえに悩む方々の診断・治療を行っています。

FUSは、薬物療法だけでは十分な効果が得られない本態性振戦やパーキンソン病(ふるえ、運動症状)の緩和を目的とした治療で、開頭する必要もなく、患者さんへの負担が少ない点が大きな特色です。



とに困っているのかじっくり伺います。これは最適な治療法を決めるために、必要なことだと考えています。

中部地区初導入 愛知県唯一の「ふるえの治療FUS」

津川 名古屋共立病院は、2017年に中部地区で初めて集束超音波治療(FUS)を導入しています。FUSは超音波を用いて、ふるえを誘発する脳の部位を熱凝固する治療法です。頭部を切開しないため、患者さんの負担が少ないのが特徴です。悪い部分を除去するというより、健全な状態に巻き戻すようなイメージです。

橋田 脳の手術と聞くと怖がられる人もいますが、FUSは全身麻酔も必要なく、治療中に医療スタッフと会話をしながら進めることができます。もちろん大前提として、手術するかどうかは患者さんに選んでいただきます。

手術は数時間ほどで、その最中にふるえがピタッと止まることも珍しくありません。何年も苦しんできた患者さんがその効果に驚き、喜んでくださる様子は、私たちにとっても嬉しいことですし、やりがいにつながっています。

津川 現在、愛知県内でFUSを導入しているのは唯一名古屋共立病院のみです。

他院への訪問や学会での発表など、これまで地道な取り組みを続けてきた結果、症例数は240例(2026年4月時点)を超えました。ただ、先程も話した通り、「ふるえが治療できる」ということや、FUSという治療

法そのもののへの認知は、まだ十分とは言えないと感じています。

橋田 そうですね。だからこそより広く周知し、受診までのハードルを下げていくことが大切だと感じています。

また、職員の皆さんにもFUSという治療法は知っていただきたいのですが、まずは治療できるふるえもあるということだけでも知っていただきたいです。専門的な判断は、私たち医師が行いますので、まずはふるえで困っている方がいましたら、名古屋共立病院のふるえ外来に連れてきてほしいです。

お知らせ！

／ 偕行会グループ健康PRアンバサダー
山本昌さん出演
名古屋共立病院「ふるえ治療」のCMが
放送されています！！



CMはこちらから！

TBS系列 CBCテレビ「サンデーモーニング」
毎週日曜日 8:00～9:54(東海3県)

※突発的なニュース(事件や天災等)により急遽変更となることがあります。

よく学び
よく働け
よく遊ぶ

川原 弘久